



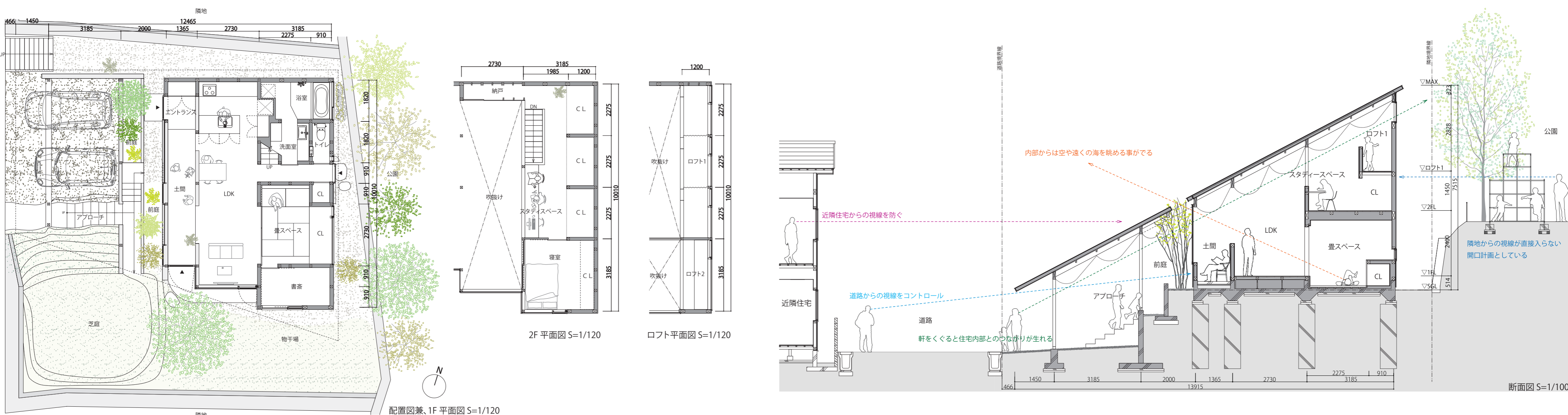
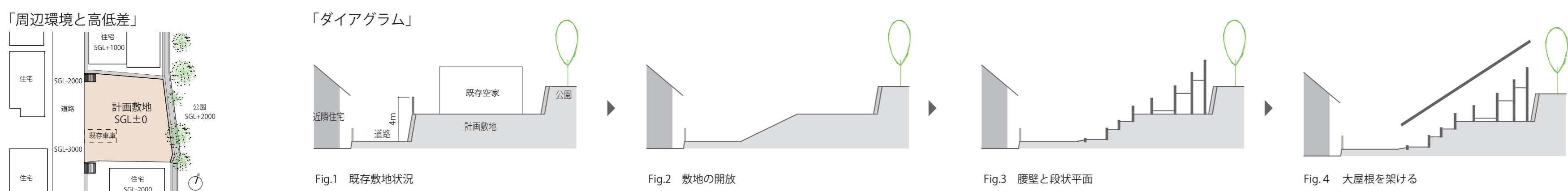
計画概要 | 所在地:愛知県蒲郡市 | 敷地面積:251.19㎡ | 建築面積:102.97㎡ | 延床面積:101.57㎡ | 構造:木造在来工法 | 仕上げ:屋根/アスファルトシングル、外壁/針葉樹合板+FRP、ガルバリウム鋼板、床/無垢フローリング、内装/壁紙、天井/布吊り

蒲郡の住宅

緑豊かで長閑な周辺環境を気に入って移住する夫婦+子供3人のための住宅である。計画地は線引き前に山の斜面をひな増造成されてつくられた住宅地の一面にある空き家で、現在は市街化調整区域に指定されている。既存敷地は前面道路から2m~3mほどの高さに造成された間地石積とコンクリートブロック塀により最大で4mの壁がそびえ立ち、街と分断された閉鎖的な印象を受けた。(Fig.1, pic)敷地に上ると南側は隣地盤面が低いこともあり比較的開かれていて遠くに海を臨むことができたが、東側に面する公園や北側の隣家からは見下ろされる高さ関係であった。隣接敷地との高さ関係を考慮した住環境をつくることだけではなく、石積により分断された前面道路側に対しては緩やかに開放する計画とする事が、この地に移住する家族にとって街や周辺住民との繋がりを生みだすきっかけとして必要だと考えた。まず、前面道路に面する石積を全長の半分程度を撤去する事で、街に対して敷地を開放すると同時に駐車スペースを確保した。(Fig.2)次に敷地東側に向かって徐々に高くなる腰壁を連続して立ち上げることで適度に仕切られた段状の平面をつくる。(Fig.3)最後に道路に向かって片流れの大屋根を架けた。(Fig.4)大屋根は住宅内部のプライバシーの確保や西日の遮断をしつつ、道路境界際まで伸びた軒先をくぐると内外が緩やかに繋がる居住空間が見れる。壁によって仕切られた内外ではなく、屋根と腰壁によって緩やかに仕切られた内外とすることで、街に対し内部が滲み出るような住宅を目指した。



pic 既存敷地状況



芝庭から見る

玄関と繋がる土間

ダイニングから南の景色を見る

ロフト1

環室

2階からの見下ろし